



たての としこ
館野 敏子 さん（関本上）

私はカラスぞうりを愛用しています。夏祭りには下駄をはいて出かけてみませんか？



初代からの継承と進化

初代昭吾^{しょうご}さんが昭和26年に「猪ノ原桐材木工所」として創業。当時は桐下駄を手作業で作るのが一般的でしたが、桐下駄機械を導入することで、生産性を向上させました。二代目昭廣^{しょうくわう}さんは、初代から技術

高度な技術、技法を保持する人として認定された茨城県伝統工芸士が市内にいるのを知っていますか。平成30年に「結城地方桐下駄」が県伝統工芸品の指定をされたのと同時に県伝統工芸士に認定された猪ノ原^{いの はら}昭廣^{あきひろ}さんと武史^{たけし}さん。今回は親子三代で受け継いできた桐乃華^{きんのか}工房の二人を取材しました。

伝統の技を家族で繋ぐ 「結城地方の桐下駄」



を学ぶだけでなく、自身の和草履修行で得た経験を活かし、草履と下駄を複合した商品の開発に励みました。また、初代が行っていた卸業の他に、店舗やイベントなどに来店し対面での販売も始めました。「お客さんの生の声が聴けて、そこからアイデアが浮かんだりするんですね」と笑顔で教えてくれます。

初代の指導は、親子ながらもとても厳しかったそうで「材料の仕入れの際に木材の品質を見抜くことに失敗をし、親父にひどく怒られたことは鮮明に覚えていますね。数多くの



昭廣さん 幸子さん 武史さん

失敗から真剣に仕事に取り組みようになりました」と修行の大変さを話してくれました。そんな二代目から指導を受けた三代目武史^{たけし}さんも、技術の習得には苦勞をしたそうで「伝統を受け継ぎ工房を守っていきたい」と語る表情からは、大きな覚悟が読み取れました。

伝統工芸で世界へ挑戦

平成28年のトヨタ自動車レクサスが主催する「レクサス ニュータクミプロジェクト」で茨城県代表1期生に選ばれた武史^{たけし}さん。このプロジェクトは、日本各地の特色や技術を生かしながら新しいモノ作りで活動する若き匠の世界に向けた活躍をサポートするものです。武史^{たけし}さんは一年をかけ多くの準備をし、最高品質のクロコダイルの革を表面に張り付けて高級感を表現した「クロコGETA」を発表しました。「このプロジェクトに参加したことにより、各界のトップランナーに出会い、たくさん

の刺激を受け、繋がりができたことは大きな自信になりました。新作を作り上げ、それを認めてもらえた時は嬉しいですね。祖父と父が繋いでくれた伝統の技があるからこそ新しいことに挑戦出来るので、自分しにしかできないモノを作っていたんです」と語る武史^{たけし}さんの穏やかな

表情の中にも職人としての熱意が伝わりました。

母の偉大な力

「機械を使った作業は危険との隣り合わせです。そんな中でも、全ての作業工程を知ってる母からの声かけのおかげで、怪我することなく作業ができています」と話す武史^{たけし}さん。「技術と品質を守って、より良い物を全国のみなさんに届けたい。工房を良くしようと思う気持ちには皆一緒」と夫と息子の間に入り潤滑油となり、厳しくも優しく支える幸子^{ゆきこ}さんの存在の大きさと家族の絆の強さを感じました。



作業の様子はこちら

